

テント一週一文（を）

——「脱原発! いとしまネットワーク」

(承前)

資料を見ていた留守番の女性におそろおそろ声を掛けてみました。

「恐れ入りますが、香椎にお住まいの山上さんでしたよね」

「私は山上ではないわよ。山下よ」

「失礼いたしました。お会いしたのはずいぶん前でしたから」

「あら、私はあなたに会うのは初めてよ」と、初めてにしてはずいぶんずけずけものを言う方です。

「ア、そうでしたかね。ここで会ったことがあるとびっくり思っていました。それでですね、山下さん」

「私は自分の名前を呼ばれると気持ち悪いのよ。おばさんとかおばあちゃんの方がしっくりするの」

「本当にそんな感じですね。でも私は「おばさん」と呼びかけるのは気持ち悪いですよ」

「じゃあオーマはどう。今日は留守番に来たのだから「留守番オーマ」はどう」

「ほかの候補は？」

「ありません！ ア～ラ、いらっしゃい」と新たな話し相手が来てくれた喜びを声に表して入口の方を見ます。入り口と言っても、「入口」と青色のテープが貼ってある幅、長さともに1メートルほどの透明のビニールフィルムです。私は知らない女性が「入口」を手で押して入って来ます。留守番オーマは私に向かっては、「留守番オーマ」で決まり」と宣言して、入って来た方に「暑いわね～」と挨拶をして椅子を勧めます。

「差し入れですヨ～」と、彼女は留守番オーマに負けないくらい元気のある声でビンとポットを机の上に置きました。

「この白いのは何？」と、留守番オーマはビンの中身が気になるようです。

「甘酒よ。家で作ったの」

「甘酒って家で作れるの？」

「簡単よ。炊飯器に……」と、彼女は私には分らない説明をしながら、ビンから紙コップに甘酒を移して、それにポットの水を注いで「ハイ」と簡単なスプーンと一緒に留守番オーマと私に渡してくれました。

「あっ、このスプーンでお米をすくって食べるのね。冷たくて気持ちがいいわ。このポットの水が冷たいわけね」

私も何か言わなければと思って「さっぱりしていて、嫌味がないですね」と言った。

「あなた、テレビの料理番組と間違っているんじゃない？」と、留守番オーマは私には手厳しい。

「ねっ、本当に口に残らないでしょう」と、甘酒オーマは私には料理番組並みにフォローしてくれる。しかし、直ぐ向きを変えて留守番オーマに「町議会議員へのアン

ケートのやり方って知っている？」と、突然尋ねる。甘酒オーマがテントに来たのは議員向けアンケートの情報収集が目的で、冷たい甘酒は手土産のようだ。

「私は議員さんたちへのアンケートをしたことはないけれど、こういうのがあるわよ。福岡県の糸島って知っている？」と、留守番オーマは生き生きとしてきた。元気になったのは、冷たい甘酒を飲んだせいだけではなさそうだ。

「知っていますよ。福岡県の一番西側の市でしょう」

「そうなの。だから福岡県の中でも佐賀県に一番近い市。市の西側が、玄海原発から30キロ圏内に含まれているの。原発から30キロ離れているか、35キロ離れているかで線引きしても、偏西風で拡散する放射能には何の意味もないのだけど……」

「それで、その糸島のことを、なぜ言い出したの？」と甘酒オーマは聴きます。アンケートのことを聞いたら糸島の話題になったので、面食らったのだらうと思います。

「その糸島に「脱原発! いとしまネットワーク」っていう市民グループがあるのよ」「聞いたことがあるわ」

「福島での事故があった後、2011年12月に「原発をなくす糸島の会」が、翌2012年1月に「九州玄海訴訟 いとしまの会」がそれぞれ結成されて、反原発運動に取り組んでいたのよ」

「九州玄海訴訟って1万人訴訟のこと？」

「そうよ。玄海原発から30キロと離れていないから、原発に批判的な人が多いのよ。ところが市長さんはね……。それはおいといて、2013年になると、反原発運動を市民全体の運動にしようとするこの2団体で話し合っ、いろいろな運動をしていた4団体と一緒にこの「脱原発! いとしまネットワーク」を結成したそうよ」

「4団体と一緒にということは、合計6団体でということ？」

「そうよ」

「それは大きなグループね」

「2014年2月の市長選では、原発推進の市長候補に対して反対候補を立てて戦ったそうよ。残念ながら当選にはいたらなかったけど」

「あっ、それも覚えているわ」

「今までに、電力小売自由化の勉強会や、映画会、講演会、「やまかわうみそらフェスティバル In 糸島」など、いろいろなイベントをしているし、市議会への請願や意見書提出は5回、市への申し入れも6回など、活発に活動しているそうよ」

「でも団体をまとめていくのは大変でしょうね」

「詳しくは知らないけれど、月に1回集まって、これをやりたいっていう個人や団体が中心になって実行委員会を作って、周りがそれを支える形でうまくすすめているそうよ」

「……、それでアンケートとはどんな関係があるの？」と、甘酒オーマは甘酒を手土産にしてアンケート情報入手に来た所期の目的をなかなか手放しません。留守番オーマの話をも早くアンケートに引き戻したいのです。

「そうそう。そうなのよ。その「脱原発! いとしまネットワーク」が、今年5月に糸島市議全員に玄海原発再稼働についてのアンケートを出していて、その結果を先月7月の14日に発表したのよ。このチラシよ。アンケートの文面も載っているし、あな

たの住む町の議員たちにアンケートをするのなら、これが参考になるのじゃない」と言って、留守番オーマは甘酒オーマに資料を見せた。

「すごいわね。回答しなかった議員や自由記述に書き込んだ議員の名前をみんな書き出しているのね」と甘酒オーマは感心していた。私も、その結果発表チラシを見たいと思っていたところ、留守番オーマが内容を読み上げ始めた。

「どの議員がどの項目に賛成したのか、反対したのかは分らないけど、議員 21 人で回答者 12 名、回答率 57%。再稼働反対の意思表示をしたのは 7 名、ちょうど 3 分の 1 ね。「賛成」「条件付き賛成」の計が 5 名で 24%。約 4 分の 1」

「日本中のとまでは言わないけれど、鹿児島県、佐賀県、福岡県、長崎県の県、市町村議員の 3 分の 1 がはっきりと再稼働反対の意思表示をしたら、川内原発も玄海原発も再稼働は絶対できなくなるわ」

「**脱原発！いとしまネットワーク**」のメンバーが幅広く活動した成果ね。これはすごいと思うわよ」

「そうね、有り難う。このアンケート文と報告を、なんとか仲間に見てもらおうわ」

「みんな元気が出ると思うわよ、きっと」と言って、留守番オーマは残った甘酒を一口飲んで、紙コップに残っている米をスプーンですくって食べた。

「そうね」と応えた甘酒オーマだが、少し気になるようで「甘酒どうだった？」と尋ねます。

「さっぱりしていて、嫌味がないわ」と、留守番オーマは無邪気に応えます。

「でしょう！」と言って、甘酒オーマは私の方を向いてウインクをしました。

(以下次号)

(文責 栗山次郎) 2017 年 8 月 7 日公開

◆ [「玄海原子力発電所の再稼働に関するアンケート」に対する、糸島市議会議員アンケートの文面とその結果](#)

その他、下記リンク先でもご覧になれます。

<https://damatoraren2.jimdo.com/>